

108 ○銷憂：紛らす、気晴らしをする。

遣わして山東を征せし時、掾となり、丹に、莽を棄てて漢を興すことを説きしも用いられず、河東に亡命す。後、光武帝に帰して、官は曲陽令。尋いで司隸從事となる。著に文集五十篇がある。『後漢書』、五十八上、五十八下。

▼「馮衍歸里」「蒙求」の標題。

後漢の馮衍、西京にありて貴顕と交結し、諸王に重んぜられた。光武、外戚の賓客に懲り、皆、法を以てたす。衍もまた罪を得。よつて故郷に帰り、門を閉じて自ら保ち、親故と通じなかつた故事。↓補説①

ここでは仲宣の「登樓賦」中にある語を踏まえて、この賦内容全体を響かせる働きをする詩語として使っている。↓補説②

○仲宣：三国魏の人（王粲）。小男で容貌も陋隗であつたがその博識と速筆とは神のごときものがあつたと伝えられる。魏の劉表はその才を愛して自分の娘を妻にやつた。彼の作で有名な「登樓賦」の冒頭に「この楼にのぼりて四望す 聊か暇日以つて憂を銷す」とある。

▼仲宣獨歩：魏の王粲が文章に長じて、追隨する者のないのを褒めて言う。

曹植の「與楊德祖書」の「今世作者、可略而言、昔仲宣獨歩於漢南、孔璋鷹揚於河朔、偉長擅名於青土、公幹振藻於海隅、德璉發迹於此魏、足下高視於上京」の話を踏まえる。

『漢語大詞典』では、「漢末文学家王粲的字、爲建安七子之一。博多多識、文思敏捷、善詩賦、尤以《登樓賦》著称」と説明し、曹植の「与楊德祖書」の「仲宣獨歩於漢南、孔璋鷹揚於河朔」の用例、劉勰の「文心雕龍・明詩」の「兼善即子建仲宣、偏美則太沖、公幹」の例、高適の「信安王幕府詩」